

# 放送大学 アニュアルレビュー2013

The Open University of Japan  
Annual Review 2013



# 2013年度学位記授与式

2014年3月21日(土)、2013年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。当日は学部卒業生・大学院修了生と同伴者をあわせて、大勢の方々が出席した。卒業証書・学位記授与の後、岡部洋一学長式辞、上野通子文部科学大臣政務官、松本文明総務大臣政務官、齋藤成吾放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、学部卒業生総代藤原朋子さん(兵庫学習センター)と大学院修了生総代内山雅淑さん(浜松サテライトスペース)による謝辞があった。その後全専攻または全コース卒業の42名の『放送大学名誉学生』に対し学長表彰が行われた。2013年度の学部卒業生は4,418名、大学院修了生は320名であった。



## CONTENTS

学長挨拶	2	社会への貢献	19
放送大学創立30周年	3	「教育支援センター」が発足	21
充実した教育内容	5	学習センターの活動、この1年	24
放送大学における研究	12	放送大学の新たな動き	31
国際交流の取り組み	17	データで見る放送大学の概要	33

### 【編集】

#### ■放送大学アニュアルレビュー2013タスクグループ

副学長/小寺山 亘	心理と教育/三宅 芳雄	情報/広瀬 洋子
社会と産業/河合 明宣(主査)	人間と文化/大橋 理枝	
生活と福祉/石丸 昌彦	自然と環境/石崎 克也	■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2013」は、2013年4月～2014年3月の放送大学の活動を記録したものです。

## Annual Review 2013の公刊によせて



2014年8月  
学長

岡部 洋一

2013年4月は、放送大学創立30周年にあたる。1981年7月に放送大学学園が設置され、2年後の1983年に大学が創設され、その2年後の1985年4月に第一回の入学生を受入れている。その記念すべき30周年を祝って2013年には多彩な行事が開催された。10月の記念式典、30周年史の編纂、各学習センターにおける記念講演会などである。本レビューに紹介されているので、参照されたい。また、1998年には、CSデジタル放送(2011年よりBSデジタル放送)により、全国どこでもテレビ、ラジオによる放送授業が視聴可能となり、それに合せ、全国の「ビデオ学習センター」が「学習センター」に改組された。つまり2013年は放送大学の完全全国化からの15年目の節目でもある。

2013年10月、30周年の式典に前後して、長年準備をしてきた大学院博士後期課程の設置が認可され、2014年4月の開設が確定した。今迄設置されてきた学部、修士課程の上に、いわゆる博士課程を開設するということは、大学として、一貫性のある体制を築くということだけではなく、仕事を持ったまま博士号を得たいという、多くの人々への要望に応える意義も有すると思っている。また、本学の博士課程は研究だけでなく、幅広い領域に関心の持てる人材を育成しようという、正に教養学部の上に置かれた新しい概念のものであり、学生の属する地域、社会のリーダー的人材を育てようというものである。全国に設置された学習センターに

おける地域連携活動との共鳴により、一層の地域貢献活動が進むことも期待している。

2012年ごろから米国を始点としてMOOC(Massive Open Online Course)という概念が形成され、世界的にe-Learningへの関心が高まった。日本でも2013年10月、日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)が設立され、本学園の白井理事長が同協議会の理事長に、私が理事に就任し、2014年4月には放送大学からも2件のコンテンツが公開される。

こうした世界の動向を踏まえ、インターネット経由で講義をしたり、学生から質問を受けたりというように、より双方向的な授業を充実させていきたいという構想があった。一方で、従来、放送大学へは、社会から種々の講座開設の要望があったが、放送に確保できる番組枠からの制約により、放送授業の増設が困難であるという問題があった。

その解決策として、すでに公開しているオープンコースウェア(OCW)の充実に加えて、オンライン授業を試行的に開設することとした。2014年に準備を行い、2015年より若干の数の講義をオンラインで開設し、以後、着実にその数を増していく予定である。

以上のように、開学30周年目である2013年は、正に放送大学の新しい方向への転換の年となったと感じている。ぜひとも今後に期待していただきたい。

# 放送大学創立30周年



放送大学は、今年開学30周年を迎えた。30年前の1983年4月に放送大学が設置され、1985年より学生の受け入れを開始した。この間、放送大学で学んだ学生の累積数は130万人を超え、卒業生は7万人を超えた。2013年度に多くの30周年記念事業を実施した。

## 放送大学30周年記念宣言

今から30年前、放送大学は、テレビ、ラジオを通じて放送による授業を行う、新しい大学として開学しました。年齢・職業・居住地を問わず、学ぶ意欲を持つ全ての方々に開かれた新しい大学。放送大学は、30年の歳月を経て、日本全国で9万人もの学生が学ぶ学舎(まなびや)へと大きく成長しました。これからも放送大学は、生涯学習と遠隔高等教育のパイオニアとして、様々なメディアを活用し、学びから世界を広げようとする全ての方々に、より一層開かれた大学となることを宣言します。



記念式典

## 放送大学の歩み

1981年7月	放送大学学園設立	1998年10月	全国の学習センターで学生受入開始
1983年4月	放送大学設置	2003年10月	特別な学校法人への移行
1985年4月	学生受入開始	2011年10月	BSデジタル放送開始
1998年1月	CSデジタル放送による全国放送開始	2013年 4月	放送大学創立30周年

## 30周年特別番組の放送



### 「放送大学30周年記念式典・シンポジウム」

10月に都内で開催した放送大学創立30周年の式典とシンポジウムの模様を伝えた。  
(12月29日、1月2日 放送)



### 「映像で見つめる放送大学の30年」

放送大学創立30周年を機に、その歴史を記録された映像で振り返り、学長、教員などによる座談会でこれからの放送大学について語りあった。  
(12月30日、1月3日 放送)



### 放送大学30周年記念特集

#### 「学ぶ。世界が変わる。～学生が語るまなびの体験～」

30代から70代まで全国から8人の学生が集い、公開収録の場で自らの学びの体験を発表した。  
(12月31日、1月4日 放送)

## 全国各地で30周年記念講演会を実施

### 東京文京学習センター「学び続ける力」



日本経済新聞(8/19朝刊)

### 大阪学習センター「学ぶことの意味」



### 神奈川学習センター「限りなき前進のための生涯教育」(林 文子横浜市長)



### 和歌山学習センター「生涯学習と放送大学」



### 島根学習センター「政治は再生するか」



# 充実した教育内容

## テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2013年度第2学期(2013年10月～2014年3月)には、学部262科目、大学院70科目の合計332科目を開講しており、原則として4年間(毎年2学期間ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2013年度の新規開設科目は、学部48科目(テレビ30科目、ラジオ18科目)、大学院14科目(テレビ4科目、ラジオ10科目)の合計62科目である。

### 2013年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	153	109	153	109
	262		262	
大学院	24	46	24	46
	70		70	
合計	177	155	177	155
	332		332	

### 2013年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア	
基礎科目			運動と健康('13)	TV	
			市民のための健康情報学入門('13)	R	
			国際理解のために('13)	R	
			遠隔学習のためのパソコン活用('13)	TV	
			英文法 A to Z('13)	R	
共通科目	一般科目	社会系	生活者のための不動産学入門('13)	TV	
			経済学入門('13)	R	
			事例から学ぶ日本国憲法('13)	TV	
		自然系	疾病の回復を促進する薬('13)	TV	
			睡眠と健康('13)	R	
			宇宙を読み解く('13)	TV	
			惑星地球の進化('13)	TV	
			計算事始め('13)	TV	
			デジタル情報と符号の理論('13)	TV	
			外国語	英語	英語の軌跡をたどる旅('13)
		スペイン語	初歩のスペイン語('13)	R	
	専門科目	生活と福祉	生活	新しい住宅の世界('13)	TV
			福祉	障がいのある生活を支援する('13)	TV
		心理と教育	心理	認知心理学('13)	TV
			臨床心理	思春期・青年期の心理臨床('13)	R
社会と産業		社会・経済	現代経済学('13)	TV	
			民法('13)	R	
		法律・政治	現代環境法の諸相('13)	TV	
			日本政治外交史('13)	TV	
			現代の国際政治('13)	TV	
			マーケティング('13)	TV	
	産業・経営	国際経営('13)	R		
		組織運営と内部監査('13)	TV		
		仏教と儒教('13)	R		
		西洋音楽史('13)	R		
人間と文化	哲学・芸術	日本近世史('13)	R		
		歴史からみる中国('13)	TV		
	文学・言語文化	日本の物語文学('13)	R		
		博物館情報・メディア論('13)	TV		
	人類学・比較文化	博物館経営論('13)	R		

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア
専門科目	情報	ソフトウェア	データ構造とプログラミング('13)	TV
			コンピュータの動作と管理('13)	TV
		情報数理	問題解決の数理('13)	TV
		ヒューマン	コンピュータと人間の接点('13)	TV
	自然と環境	生命・生態	生命分子と細胞の科学('13)	TV
			物質・エネルギー	力と運動の物理('13)
		数理	現代化学('13)	TV
			統計学('13)	R
総合科目	総合科目	数学の歴史('13)	TV	
		色を探究する('13)	TV	
			文学のエコロジー('13)	R

### 2013年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	ヘルスリサーチの方法論('13)	R
人間発達科学	カリキュラム編成論('13)	R
臨床心理学	臨床心理面接特論('13)	R
	障害児・障害者心理学特論('13)	R
社会経営科学	日本の技術・政策・経営('13)	R
	自治体ガバナンス('13)	TV
	環境工学('13) ※自然環境科学Pと共通。	TV
人文学	美学・芸術学研究('13)	TV
	アフリカ世界の歴史と文化('13)	R
情報学	ことばとメディア('13)	R
	音楽・情報・脳('13)	TV
	ソフトウェア工学('13)	R
自然環境科学	研究のためのICT活用('13)	R
	現代物理学の論理と方法('13)	R
	環境工学('13) ※社会経営科学Pと共通。	TV

## 特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2013年は新規開設12講義（テレビ6講義、ラジオ

6講義）を含む、全87講義（テレビ44講義、ラジオ43講義）の特別講義を放送した。

### 2013年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師	*開設当時の肩書	
外邦図 —軍事情報から近代資料へ—	大阪大学大学院教授	小林 茂	TV
自然災害では死なせない ～ある災害社会工学者の格闘～	群馬大学教授	片田 敏孝	TV
東日本大震災 復興支援と地域福祉	日本福祉大学教授	平野 隆之	TV
未来への教訓 ～検証・福島第一原発事故～	(株)社会技術システム 安全研究所長	田辺 文也	TV
災害に安全なまちとすまい	東京工業大学名誉教授	和田 章	TV
自分ができる細胞健康科学 ～細胞・身体連携力学応答機構と スローエクササイズ効果～	東京大学名誉教授	跡見 順子	TV

講義題目名	出演講師	*開設当時の肩書	
口語で読み解く「出雲神話」 第1回「スサノヲの世界」 第2回「オホクニヌシの世界」	立正大学教授 (千葉大学名誉教授)	三浦 佑之	R
御国言葉で「よきたより」 ～心に響く聖書の和訳を求めて～	医師	山浦 玄嗣	R
日本型近代家族	武蔵大学教授	千田 有紀	R
科学技術倫理と著作権	放送大学国際連携部門 (教授)	児玉 晴男	R
原子力情報の公開と情報公開法	獨協大学法科大学院 特任教授	三宅 弘	R
放射線はどうして 怖いのか、怖くないのか	日本医科大学教授	太田 成男	R

## インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(キャンパス・ネットワーク・ホームページ)で、授業科目のインターネット配信(ストリーミング配信)を開始した。配信科目数は年々拡充しており、ラジオ科目ではすべてをインターネット配信している。2013年度の配信科目数は、テレビ135科目、ラジオ155科目、特別講義67講義である。

### 2013年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	123	109
大 学 院	12	46
特別講義	24	43
合 計	159	198

## 寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2013年度には、6科目の寄附科目を放送した。

### 2013年度開設寄附科目一覧

科目名	寄付団体名	メディア
著作権法概論 ('10)	日本音楽著作権協会	R
消費者と証券投資 ('11)	日本証券業協会	TV
組織運営と内部監査 ('09)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行 ('10)	全国銀行協会	TV
うま味発見100年 ～その先端科学を探る～ (特別講義)	味の素株式会社 ライフサイエンス研究所	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～ (特別講義)	日本病院薬剤師会	TV

## 対面による授業

## 面接授業（スクーリング）

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2013年度は、3,110科目（1学期1,537科目、2学期1,573科目）を開講している。

また、放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、共に学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

さらに、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック内の学習センターが連携し、リレー形式でも開講している。

これまで入学生が入学学期に面接授業を受講する場合、学期途中に空席のある科目を追加登録することでしか受講できなかったが、2014年度第1学期から入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう制度の見直し、学生サービスの向上を常に図っている。



青森学習センター「白神学-白神の動物と植物」



福岡学習センター「文化財の保存と修復」

## オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学

教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコースウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加、2010年から特色ある授業科目をインターネット上で公開している。

### 2013年度オープンコースウェア科目一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
社会学入門('10)	森岡 清志	人格心理学('09)	大山 泰宏
中国語入門I('10)	宮本 徹/木村 英樹	日本文学の読み方('09)	島内 裕子
入門線型代数('09)	隈部 正博	環境と社会('09)	鈴木 基之/植田 和弘
空間とベクトル('09)	松本 幸夫/川崎 徹郎	教育心理学概論('09)	太田 信夫
コンピュータのしくみ('08)	岡部 洋一	公衆衛生('09)	多田羅 浩三/瀧澤 利行
解析入門('08)	熊原 啓作/河添 健	北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)	吉田 光男
計算事始め('13)	川合 慧	心理・教育統計法特論('09)	福田 周/卯月 研次
組織運営と内部監査('13)	斎藤 正章/蟹江 章	社会福祉と権利擁護('12)	大曾根 寛
循環器病の健康科学('11)	多田羅 浩三/吉川 純一	特別講義:ジャーナリストの父、タレントの息子 ~明治日本に貢献したブラック親子~	柏倉 康夫
地域社会の教育的再編('12)	岡崎 友典/夏秋 英房	特別講義:世界の名著を読む 国富論から学ぶ	竹本 洋
市民生活と裁判('12)	來生 新/川島 清嘉	特別講義:人と動物のかかわり 1.身近な動物	石橋 正彦
発音をめぐる冒険('12)	井口 篤 ステュワート・ヴァーナム・アットキン	特別講義:人と動物のかかわり 2.ネズミの話	石橋 正彦
デジタル情報の処理と認識('12)	柳沼 良知/鈴木 一史	特別講義:地球上最大の動物、クジラ	大隅 清治
初歩からの数学('12)	隈部 正博		
特別講義:日本漫画と文化多様性 ~世界に拡散する絵物語コミュニケーション~【日本語版】	出口 弘		
特別講義:日本漫画と文化多様性 ~世界に拡散する絵物語コミュニケーション~【英語版】	Hiroshi Deguchi		
特別講義:国際ボランティア学への招待	山田 恒夫/川嶋 辰彦 内海 成治/小川 寿美子		

## 誰もが心地よく学べるために

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2013年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は78科目あり、これは全テレビ科目の約44%にあたる。特別講義についても44科目中41科目(約93%)に字幕を付して放送をおこなった。

## 特別な支援が必要な学生への学習支援

また単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2013年度第1学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は108科目で、対象となった学生数は延べ158名であった。また、点字での出題対象科目数は76科目であり、対象となった学生数は延べ105名であった。その他、必要に応じて、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2013年度第1学期は7名(延べ10名)の学生が受験した。

## 放送大学機関リポジトリ“ManapiO”(まなびお)の公開

放送大学は、大学で生産された教育研究成果や大学が保有する貴重資料を一般に公開するため、2013年10月28日、放送大学機関リポジトリ“ManapiO”(まなびお)を公開した。

2013年度には、「放送大学研究年報」や「メディア教育研究」をはじめとする放送大学の刊行物本文をバックナンバーから最新号まで収録した。また、附属図書館が所蔵するちりめん本コレクションの本文画像をあわせて収録したほか、学術論文を一部先行登録した。

ManapiOは、本学学生はもちろんのこと、インターネットで誰でもアクセス可能である。また、CiNiiなど論文データベースサービスの検索対象ともなるため、本学の教育研究成果がより広く認知されることが期待できる。さらに、現物を見ることが難しい貴重書の本文

をインターネットで容易に閲覧できることともなった。

今後は、本学教員が発表した学術論文本文の収録を予定するなど、コンテンツのさらなる拡充をすすめる。

URL: <http://ouj.repo.nii.ac.jp/>



“ManapiO”(まなびお)のトップページ

## 図書館情報サービスの拡充

放送大学附属図書館では、2014年3月に図書システムを更新し、蔵書検索サービス(OPAC)を一新した。

これにより、従来から提供してきた学生向けの非来館型サービスをさらに拡充し、OPACによる図書の配送サービス範囲を拡大したり、OPACからの学生図書リクエストを可能にする等、インターネットを利用した学生向けのサービスを充実した。

放送大学OPAC (<http://webopac.ouj.ac.jp/>)



蔵書検索サービス(OPAC)トップページ

## 科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2013年度は24プランとなっている。2014年度からは、「人にやさしいメディアデザインプラン」「計算機科学基礎プラン」「地域貢献リーダー人材育成プラン」を追加して27プランとなる。

取得認証数は、2006年度223、2007年度1,092、2008年度2,848、2009年度2,552、2010年度2,496、2011年度2,250、2012年度2,552、2013年度では2,178となっており、2014年度も前年度と同程度の認証取得が見込まれている。2014年3月31日までの累計取得数は16,191にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2013年度認証プランと認証状取得者数(2014年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	1,964
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	1,745
3 社会生活企画プラン	社会企画士	914
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	528
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	2,182
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	591
7 社会探究プラン	現代社会の探究	404
8 市民活動支援プラン	市民政策論	420
9 実践経営学プラン	経営の理解	431
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	220
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,003
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	238
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	681
14 アジア研究プラン	アジア研究	272
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	395
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	379
17 生命科学プラン	生命人間科学	638
18 環境科学プラン	環境科学の基礎	501
19 社会数学プラン	数学と社会	226
20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	204
21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	794
22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	992
23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	299
24 工学基礎プラン	工学基礎	170
合 計		16,191

## 他機関への教育支援

### 単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2013年度には、新たに3校の大学、3校の短期大学及び2校の高等専門学校と単位互換協定を締結し、合計378校となった。

2013年度に締結した単位互換協定締結校

大学等名
鈴鹿医療科学大学
大手前大学
宇部工業高等専門学校
仁愛女子短期大学
大分県立芸術文化短期大学
大分工業高等専門学校
日本文理大学
別府溝部学園短期大学

### 専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。

2013年度も新たに1校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で25校となった。

2013年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名
出雲コンピュータ専門学校

## キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状（知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域）、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、学芸員資格、社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格、介護教員講習会の対応科目

学芸員資格に関しては、博物館法施行規則改正により、2012年度から9科目19単位の修得が必要となったが、放送大学では、博物館実習を除く8科目（うち2科目は2013年度から開講）を開講して対応することとなった。

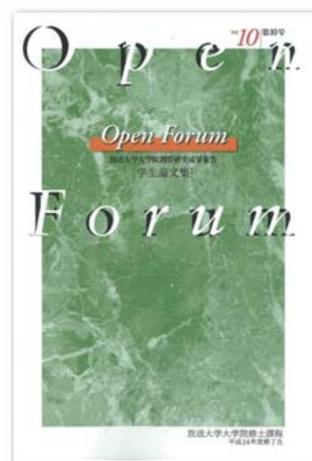
博物館実習についても、2012年度には、放送大学初の試みとして、岐阜女子大学との連携による博物館実習講座の開講が実現した。これは、一定の要件を満たした放送大学生向けに岐阜女子大学が講座を開講するものであり、2013年度には全国から20名の学生が受講した。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回（夏期及び冬期）実施することとしており、2013年度の講習では、約7,000人の受講者が、延べ約25,000科目を受講した。

## 学生の研究成果の公開

放送大学（学部）では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開講しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパス・ネットワーク・ホームページで開始した。2013年度は、2012年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書（全文）」33点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum（放送大学大学院教育研究成果報告）」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2014年3月刊行の第10号には2012年度修了生全313名の研究成果の中から、論文10点、研究ノート42点が掲載されている。



Open Forum 10号

## 放送大学第6回学生エッセイコンテスト

日頃から自分の考えていることや感じたことなどをエッセイを通して表現すること、並びに学生からの意見や主張を通して本学の学生や教職員、関係者をはじめ広く社会へ発信することを目的として2008年から実施している。第6回を迎えた本年度は「未来」というテーマの募集に対し104点の応募があり、選考委員会において厳正な審査を行った結果、10点の入賞作品を選んだ。

応募者の年齢は21歳から85歳と幅広く、所属する学習センターなども全国39センターにわたっていた。応募作品はいずれもすばらしい作品であった。

賞	受賞者	作品名	学習センター サテライトスペース
最優秀	中村 ゆみ	on the way	北海道
	織田 祐子	未来はここから	岐阜
優秀	小林 妙子	ふたたびの未来	岐阜
	村山 美和	私へのギフト	東京文京
佳作	浅田 光子	七十の手習い	静岡
	今野 啓次	今を生きる	埼玉
	佐藤 マサ子	学び、未来をつかむ	埼玉
	鈴木 寛之	未来への助走始めました	神奈川
	玉田 啓子	ここ君と私の時間	東京文京
	福田 一夫	人生の勝利に向けて、未来への誓い	栃木

注1) 各賞毎の氏名は、五十音順です。 注2) 学習センターは、応募時のものです。

## より質の高い教育を目指して

### じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。1つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容を見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な

内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年半前。

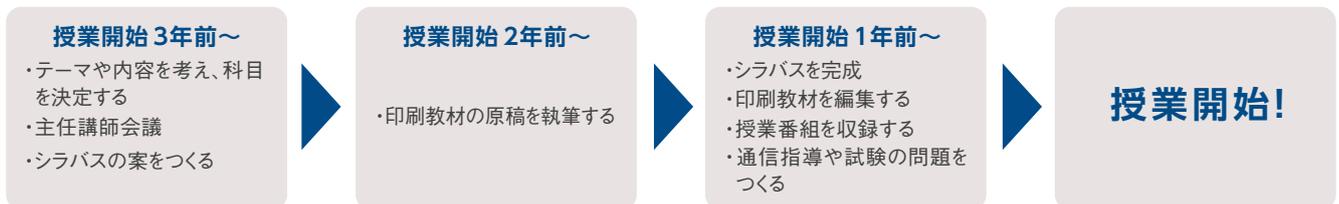


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ1つの授業科目は作成される。

#### 授業科目づくりの主な流れ



## FD (Faculty Development) の取り組み

FD (Faculty Development) の一環として、2014年2月19日(水)に講演会を開催した。

今年度は、放送授業の制作・収録についての工夫、教授法についての講演及び、高等教育における障がい者支援に関する講演を、教員、ディレクターが行った。

仁科エミ教授、園田真由美ディレクターからは、2013年度新規開設科目である「音楽・情報・脳('13)」の制作にあたって、効果的な映像作りや、スタジオ撮影・ロケについて工夫した内容などについての講演があった。

広瀬洋子教授からは、障がいのある学生への支援に関して、放送大学の現状や、大学はどのような点に配慮すべきか、などの点についての講演があった。

2講演の終了後、参加者からの質疑応答があり、活発な議論が展開された。

THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

2013年度 FD 研究会

日時：2014年2月19日(水) 13:30~14:30  
場所：放送大学 附属図書館 3階大会議室

プログラム：  
13:30 開会  
13:35-13:55 講演  
放送大学 情報コース 仁科エミ教授、園田真由美ディレクター  
「こぼれ出る音楽と映像の力  
— 音楽 情報 脳 ('13) を制作して」  
13:55-14:15 講演  
放送大学 情報コース 広瀬洋子教授  
「障がいのある学生への修学支援 放送大学は何をすべきか」  
14:15-14:25 質疑応答  
14:30 閉会

主催：FD委員会  
問合せ先：学務部教務課教務係(内線4264)

※ 本学の教職員であれば、どなたでもご参加いただけます。  
※ 事前の申し込みは不要です。  
※ 参加希望の方は、当日直接会場にお越しください。

# 放送大学における研究

## 特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。また、特に研究の支援・推進のために特別研究費の制度を設けている。放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクト、学術上あるいは大学運営に貢献する放送大学では、プロジェクト支援として、また教員個人の

研究を支援するためなどに資金面での支援をしている。

放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。

2013年度に特別研究として、また放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

### 2013年度学長裁量経費I (プロジェクト支援)決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	井出 訓	認知症の人を支えた家族介護者のストレス関連成長に関する実態把握
生活と福祉	教 授	井上 洋士	放送大学における人権教育の体系化の試みとモデル的面接授業展開
生活と福祉	教 授	宮本 みち子	放送大学若年学生の学習環境整備とネットワーク作り
社会と産業	教 授	坂井 素思	大学院教育における「研究教育組織の革新」に関する開発研究
情 報	准教授	秋光 淳生	音声添削システム実用化に向けた認証方式変更のための改修
情 報	教 授	加藤 浩	推論妥当性証明学習ツール「対話型タブローチェッカー」の開発
附属図書館	館 長	松村 祥子	機関リポジトリ 学術論文登録支援プロジェクト
自然と環境	教 授	隈部 正博	放送授業科目、入門線型代数('14)の補助教材の作成
社会と産業	教 授	坂井 素思	大学院教育の「情報組織の革新」に関する開発研究
生活と福祉	准教授	戸ヶ里 泰典	保健・看護系大学院生の統計解析スキル向上に資する教育プログラムの開発
情 報	准教授	鈴木 一史	放送番組と連動したプログラミング教材開発と調査
制作部	部 長	高比良 一道	視覚、聴覚にどう訴えるのか! (仮) ～放送授業の作り方～

### 2013年度学長裁量経費II (研究助成)決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	大曾根 寛	未成年後見のための市民・専門職・行政・家族の協働に向けて —子育て支援の包括的サポート体制構築の視点から—
生活と福祉	教 授	奈良 由美子	生活の安全・安心に資するための社会技術と生活科学の有機的連関についての研究
情 報	教 授	中川 一史	情報端末環境に対応した国語デジタル教科書・教材活用カリキュラムおよびツールの開発
情 報	准教授	秋光 淳生	放送科目で用いるeポートフォリオの運用と開発
自然と環境	教 授	石崎 克也	値分布理論を用いた複素差分方程式の研究
情 報	准教授	高橋 秀明	情報生態学の構築:人間のプロセス制御行動を事例に
情 報	准教授	辻 靖彦	遠隔教育における双方向性向上に基づきリアルタイム学習支援環境の構築

放送大学教育振興会助成による研究:教材及びシステム等の研究開発助成、教材及びシステム等の研究開発助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
自然と環境	教 授	松本 忠夫	熱帯開発途上国における生物自然環境の現況、その保全活動状況に関する現地調査、及びその放送大学教材作成への反映
社会と産業	教 授	高橋 和夫	テレビ総合科目「世界の中の日本(15)」の制作のための資料収集と海外ロケの事前調査
情 報	教 授	児玉 晴男	ラジオ番組とテキスト情報とを融合したネット教材開発に関する研究
情 報	准教授	辻 靖彦	潜在保育士を対象とした、楽しく学べてスキルの習得状況を定量的に確認できるピアノ学習eラーニング教材の開発
情 報	准教授	秋光 淳生	学習者の主体性を喚起するためのポートフォリオサーバーの開発
人間と文化	教 授	内堀 基光	放送大学放送教材「HUMAN:人間・その起源を探る」の素材映像アーカイブ目録作成と再教材化に向けた検討

放送大学教育振興会助成による研究:教材の海外への普及・協力事業助成、国際交流の促進事業助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	河合 明宣	放送大学のODL(公開遠隔学習)経験移転を軸にしたブータン王立大学シェルブツェ・カレッジとの国際交流プロジェクト
	学 長	岡部 洋一	海外公開大学の調査

放送大学教育振興会助成による研究:機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	末生 新	単位互換・連携協力等の促進及び、資格取得支援の充実

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教 授	岸根 順一郎	新学術領域研究	超低速ミュオンをプローブとするカイラル磁性結晶のダイナミクス探索
人間と文化	教 授	稲村 哲也	基盤A	熱帯高地環境における家畜化・牧畜成立過程に関する学際的研究—アンデスを中心に
情 報	教 授	山田 恒夫	基盤A	国際的な生涯学習コミュニティ構築のための学習コンテンツ共有・流通システムの研究
情 報	教 授	近藤 智嗣	基盤B	博物館における複合現実感共用システムの構築と科学的思考の育成に関する縦断的研究
生活と福祉	教 授	宮本 みち子	基盤B	労働市場から排除された若者を支援する政策手法とその評価に関する国際比較研究
心理と教育	教 授	小川 正人	基盤B	2000年代以降の分権・行財政改革下における地方教育行財政の変容に関する調査研究
生活と福祉	教 授	大曾根 寛	基盤B	障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究—社会的包摂に向けて—
生活と福祉	教 授	井上 洋士	基盤B	HIV陽性者のヘルス・プロモーション支援に向けた当事者参加型調査研究
情 報	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚分散協調訓練の生体信号適応制御による円滑化
生活と福祉	准教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	全国代表サンプルによるストレス対処力SOCを規定する社会的要因に関する実証研究
自然と環境	教 授	岸根 順一郎	基盤B	カイラル結晶構造に宿る新磁性機能の探索
足立学習センター	所 長	富永 典子	基盤B	マンマー少数民族の生活環境および未利用生物資源の調査—チン州北部—
情 報	教 授	黒須 正明	基盤C	ユーザエクスペリエンス評価手法の開発
情 報	教 授	青木 久美子	基盤C	ICTを活用した「ジェネリックスキル」の効果的育成に関する調査研究
社会と産業	准教授	斉藤 正章	基盤C	音楽産業の国際経営とその課題
社会と産業	教 授	梅子野 晁	基盤C	3DCAD対応数値シミュレーションを取り入れた建築環境設計の授業プログラムの開発
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤C	高齢者の介護予防に向けた生活空間評価方法の研究
生活と福祉	教 授	小城 勝相	基盤C	酸化ストレスの生体影響に基づく新規機能性食品の開拓
情 報	教 授	近藤 喜美夫	基盤C	防災意志決定訓練のための臨場感提示環境とコンセプトマップによるシナリオ作成支援
情 報	准教授	芝崎 順司	基盤C	映像視聴反応可視化システムの開発と双方向型・協調学習利用に関する研究
人間と文化	教 授	宮下 志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス工房の総合的研究—第三期
人間と文化	教 授	内堀 基光	基盤C	家族史から接近するサラワク・イバン社会におけるモダニティの形成

## 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所属	職名	氏名	研究種目	研究課題名
心理と教育	准教授	森 津太子	基盤C	“目”という社会的手がかりが向社会的行動に与える影響
情報	教授	苑 復傑	基盤C	中国高等教育の「国際合作」の構造と機能
自然と環境	教授	二河 成男	基盤C	昆虫類核ゲノムに転移した細菌由来遺伝子群の探索とその進化的役割
情報	准教授	浅井 紀久夫	挑戦萌芽	拡張現実感を利用した科学館展示における学習環境の研究
生活と福祉	教授	井上 洋士	挑戦萌芽	患者向けネット上情報とバーチャルコミュニティの再構成、及びその効果についての研究
情報	教授	加藤 浩	挑戦萌芽	状況内評価における評価表出行動自動収集分析システムの研究
生活と福祉	教授	井出 訓	挑戦萌芽	認知症高齢者を介護する家族介護者の離職に関する現状分析とサポートシステムの構築
情報	准教授	森本 容介	若手B	教育・学習コンテンツの再利用を促進する環境の構築と評価
自然と環境	准教授	安池 智一	若手B	開放系電子状態理論による界面光分子科学の基礎研究
情報	准教授	葉田 善章	若手B	映像マルチメディアによるアノテーションを使ったモバイル学習環境の構築
人間と文化	准教授	井口 篤	若手B	ラテン語宗教テキスト Stimulus Amoris (c. 1300) の校訂

## 日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムによる研究

所属	職名	氏名	研究課題名
情報	教授	仁科 エミ	ハイパーニック・エフェクトを応用した健康・快適なメディア情報環境の構築

## 放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は、放送大学の専任教員が日頃の研究成果を発表する場である。2013年版を2014年3月に発行した。

## 2013年度放送大学研究年報(第31号)執筆者及び論題一覧

氏名(コース・部門)	共著者	論題
大場 登 教授 (心理と教育)		「王舎城の悲劇」とゴータマ仏 —ユング派心理療法の視点から—
佐藤 仁美 准教授 (心理と教育)		E.Munchの愛した空間 ～愛と苦悩～
原田 順子 教授 (社会と産業)		1990年代の日本の賃金制度改革の影響
坂井 素思 教授 (社会と産業)		信頼性と集団のリーダーシップ —社会における一般信頼と個別信頼—
河合 明宣 教授 (社会と産業)	シンゲイ・ナムギャル	Role of Teachers in alleviating Cultural Poverty: GNH begins in the Classroom
黒須 正明 教授 (情報)	橋爪 絢子	サービス活動の人間中心設計
三輪 眞木子 教授 (情報)	高橋秀明・柳沼良知・仁科エミ・ 広瀬洋子・川淵明美・秋光淳生	放送大学における デジタル・リテラシー教育の展開と成果
浅井 紀久夫 准教授 (情報)		VR Jugglerを用いたPCクラスタによる 没入型ディスプレイの構築
吉岡 一男 教授 (自然と環境)	山口 直晃	The Determination of Abundances of Two Stars with Planets, $\epsilon$ Eri and HD37124
東條 正 所長 (長崎学習センター)		港湾都市長崎における近代交通体系の形成過程
島内 裕子 教授 (人間と文化)		『徒然草句解』の注釈態度 —巻之一を中心に—



放送大学研究年報 第31号

## 研究成果の発表・普及

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。

また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大学や公共の図書館などに所蔵されているので、閲覧

可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なりより専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみて欲しい。

専攻・氏名	書籍名・辞典名	出版社	
生活と福祉	宮本 みち子	生活保障の戦略（共著）	岩波書店
		地域・労働・貧困と地域（共著）	教育科学研究会編・かもがわ出版
	奈良 由美子	子どもの安全とリスク・コミュニケーション（共著）	関西大学出版部
心理と教育	小川 俊樹	児童・青年期臨床に活かせるロールシャッハ法	金子書房
		学校教育辞典 第三版（分担執筆）	教育出版
		APA 心理学大辞典（分担執筆）	培風館
	小川 正人	バウムテストの読み方 ― 象徴から記号へ 阿部恵一郎著（書評）	精神療法, 40(2), 120-121.
社会と産業	梅干野 晁	解説 教育六法 ― 2014年度版（共編修）	三省堂
人間と文化	稲村 哲也	REMOTE SENSING AN INTRODUCTORY TEXTBOOK（分担執筆）	丸善出版
		遊牧・移牧・定牧 ― モンゴル、チベット、ヒマラヤ、アンデスのフィールドから	ナカニシヤ出版
		インド、ラダーク地方ドムカルにおける家畜飼養の特徴、社会背景、およびその変容（共著）	ヒマラヤ学詩15号
	内堀 基光	身体化の人類学 ― 認知・記憶・言語・他者（共著）	世界思想社
		制度 ― 人類社会の進化史的基盤（共著）	京都大学学術出版会
	五味 文彦	「枕草子」の歴史学 春は曙の謎を解く	朝日新聞出版[朝日選書]
	島内 裕子	「舞姫」の位相（共著）	勉誠出版
		週刊 新発見! 日本の歴史 14号（共著）	朝日新聞出版
		すらすら読める徒然草（巻末解説）	講談社文庫
		おたのしみ弁当（編著）	講談社文芸文庫
滝浦 真人	日本語は親しさを伝えられるか（そうだったんだ!日本語）	岩波書店	
宮下 志朗	書物の現場 白百合女子大学言語・文学研究センター編（共著）	弘学社	
情報	黒須 正明	人間中心設計の基礎	近代科学社
		人間中心設計の海外事例（共著）	近代科学社
	三輪 眞木子	図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学1）	東京大学出版会
自然と環境	安池 智一	大学院講義物理化学 I. 量子化学と分子分光学（共著）	東京化学同人
宮城学習センター	原 純輔	「若者の性」白書 ― 第7回青少年の性行動全国調査報告書	小学館
埼玉学習センター	菅野 峰明	世界地名大事典7 北アメリカI	朝倉書店
		世界地名大事典8 北アメリカII	朝倉書店
東京足立学習センター	富永 典子	新スタンダード栄養・食物シリーズ2 生化学（共著）	東京化学同人
福岡学習センター	栃原 裕	健康に暮らすための住まいと住まい方 ― エビデンス集 ― 温度の変化によって血圧はどうなる（共著）	技報堂出版

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。

放送大学の専任教員・学習センター所長は、各分野・

領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2013年度に発表された、学術論文を紹介する。

専攻・氏名	論文名	発表(雑誌ほか)
生活と福祉	大曾根 寛	法学者から見たアルコール健康障害対策基本法 日本アルコール関連問題学会誌 第15巻第2号
	小城 勝相	Increase in secretory sphingomyelinase activity and specific ceramides in the aorta of apolipoprotein E knockout mice during aging. Biol. Pharm. Bull., 36, 1192-1196 (2013).
		Racemization of the aspartic acid residue of amyloid- $\beta$ peptide by a radical reaction. Biosci. Biotechnol. Biochem., 77, 416-418 (2013).
	奈良 由美子	Observations on Residents' Trust in Risk Management Agencies and Their Perception of Earthquake and Atomic Power Plant Incident Risks: From Questionnaire Surveys before and after the Great East Japan Earthquake Social and Economic Systems Studies, No.34
		四川大地震と生活復興—新北川県被災者へのインタビュー調査から— 生活リスクマネジメント研究の役割と展望 社会・経済システム(社会経済システム学会)、 第34号、p83 - p98(2013年10月) 危険と管理(日本リスクマネジメント学会)、 No.45、pp. 57-76(2014年3月)
関根 紀子	平成24年度 体力・運動能力調査報告書(内藤久士、廣津信義、関根紀子他) 文部科学省	
心理と教育	小川 俊樹	Unconscious and conscious processing of negative emotions examined through affective priming Psychological Reports, 112(2), 607-625
		Rorschach texture responses are related to adult attachment via tactile imagery Rorschachiana, 34(2), 115-136
	小川 正人	『素人』教育委員会と教育長の役割・権限関係の見直し—その論議と改革のオルタナティブ 日本教育学会「教育学研究」第80巻第2号 2013年6月 PP2-13
社会と産業	岡田 光正	Impact of flood events on macrobenthic community structure on an intertidal flat developing in the Ohta River Estuary Marine Pollution Bulletin, 74, 1, 364-373
	梅干野 晁	数値シミュレーションによる江戸町屋敷の空間特性と表面温度及び大気への顕熱負荷との関係の把握 —江戸時代後期の江戸町人地における居住者の生活行動を考慮した夏季熱環境の評価— その3— 日本建築学会環境系論文集,第78巻, 第693号,pp827-833,2013.11
		建築外部空間の熱放射環境がダイレクトゲインシステムの性能に及ぼす影響の数値解析 日本建築学会環境系論文集,第78巻, 第693号,pp841-848,2013.11 8日間合成水温データを用いた湖の解氷日推定手法の開発 日本赤外線学会誌,Vol.23,No.2, pp47-54,2013.12
情報	黒須 正明	Concept of User Experience and Issues to be Discussed (in "Frameworks of IT Prosumption for Business Development") Pakowska, M. IGI Global, 2013
	児玉 晴男	知的財産権と知る権利との抵触に関する問題 パテント(日本弁理士会)、 Vol.66, No.6, pp.72-78
緊急時における企業情報の開示と知的財産権の制限との関係 企業法学研究(企業法学会)、 Vol.2, No.1, pp.23-33		
自然と環境	安池 智一	Reaction of neutral platinum clusters with N <sub>2</sub> O and CO J. Phys. Chem. A 117 (2013) 12175, American Chemical Society, Oct 24, 2013
		Development of open-boundary cluster model approach for electrochemical systems and its application to Ag <sup>+</sup> adsorption on Au(111) and Ag(111) electrodes J. Chem. Phys., 139 (2013) 104101, American institute of physics, Sep 9, 2013
福井学習センター	鈴木 敏男	Commutators of the four-current and sum rules in relativistic nuclear models Progress of Theoretical and Experimental Physics Oxford University Press 2013, 4, 043D03(13pages)
岐阜学習センター	岡野 幸雄	Mitotic catastrophe and cell death induced by depletion of centrosomal protein Cell Death Dis 4: e603; (2013)
福岡学習センター	栃原 裕	A comparison of hydration effect on body fluid and temperature regulation between Malaysian and Japanese males exercising at mild dehydration in humid heat Journal of Physiological Anthropology, 33:5, 2014
		熱帯出生者と温帯出生者の皮膚温度感受性の季節差 日本生理人類学会誌, 18(4): 153-164, 2013
		Effects of 6-hour exposure to low relative humidity and low air pressure on body fluid loss and blood viscosity Indoor Air, 23(5): 430-436, 2013
		The impact of firefighter personal protective equipment and treadmill protocol on maximal oxygen uptake Journal of Occupational and Environmental Hygiene, 10(7): 397-407, 2013
		看護服に関する全国調査 繊維製品消費科学, 54(2): 172-179, 2013
		Cold-induced vasodilation and vasoconstriction in the finger of tropical and temperate indigenes Journal of the Human-Environment System, 16(1): 11-19, 2013
		異なるデザインの看護服に対する印象評価 繊維製品消費科学, 54(2): 172-179, 2013
Different impacts of normobaric/hypobaric hypoxia on physiological and subjective responses at a cold environment Journal of the Human-Environment System, 16(1): 11-19, 2013		
Occupational stress and strain in relation to personal protective equipment of Japanese firefighters assessed by a questionnaire Industrial Health, 51: 214-222, 2013		

# 国際交流の取り組み

2013年も、本学が加盟する国際組織の会議への参加、本学での第5回日中韓セミナーおよび国際シンポジウムの開催、また新たな国際交流協定の締結など、国際交流に積極的に取り組んだ。

## 第27回AAOU年次大会への参加

2013年10月1日から3日まで、アジア公開大学連合(AAOU=Asian Association of Open Universities)の第27回AAOU年次大会がパキスタン・アラマイクバル公開大学主催で行われた。世界から約250名の参加があり、本学からは、岡部学長がAAOU役員会に参加したほか、教員もそれぞれ研究発表を行った。



## 第25回ICDE世界大会およびICDE-SCOP2013会議への参加

本学は国際遠隔教育会議(ICDE=International Council for Open and Distance Education)の機関会員となっており、2013年も各会議に積極的に参加した。

2013年10月16日から18日の3日間、第25回世界大会が中国・天津にて天津広播電視大学主催にて“New Strategies for Global Open, Flexible and Distance Learning”のテーマで開催され、約700名が参加した。本学からは岡部学長をはじめ教員3名が参加し、分科会等で発表を行った。

2013年は、ICDE Prizes for Innovation and Best Practiceという革新的な教育実践に対して贈られる賞が新設され、本学は、他機関と共にスポンサーになったため、岡部学長は、式にて賞の授与も行い、存在

感を示した。

また、2013年11月27日から30日までポルトガル・リスボンにてアベルタ大学主催で、世界各国の遠隔教育に関する情報共有等を行うことを目的とした遠隔教育機関長会議(SCOP2013 = Standing Conference of President)が開催され、本学から小寺山副学長ら3名が参加した。



## 放送大学国際シンポジウム2014(OJIS2014)の開催

2014年2月7日、カナダ、フィリピン、英国、オーストラリアから有識者を招き、国際シンポジウム2014(OJIS2014)を幕張国際研修センターにて開催した。白井理事長の挨拶に続き青木教授の総合司会により「世界に広がるオンライン教育の潮流」をテーマに進行された。

昨今、MOOC(大規模公開オンライン教育)を初めとするオンライン大学教育が話題となっているため、今回のシンポジウムに対する関心度も高かったと思われ、当日の参加者は181名にのぼった。この流行以前から、オ

ンライン教育に従事してきた先進者から、海外の大学での実践の様子を、講演やパネルディスカッションを通じて見識を得られたことは、大変有用であった。



## 第5回 日中韓セミナーの開催

2013年9月5日、第5回日中韓セミナーが放送大学本部において開催された。今回のテーマは「公開大学における教育の質の向上」であり、本セミナーには、韓国からはKNOU(韓国放送通信大学校)ユン ビョンジュン学生処長、チョン ミンスン教授、コ ソンファン副教授およびカン サンギユ助教授ら4名が講演された。今回は、中国のOUC(国家開放大学)が不参加で2カ国のみで



の開催になったが、73名の参加者があり、盛況であった。セミナーは2つのセッションで構成され、セッション毎に2つのテーマを設けた。

また、最後に2つのセッションを通じて議論してきた論点について、各セッションの司会者がまとめを行い、講演者、討論者、総合司会で総括討論を行った。



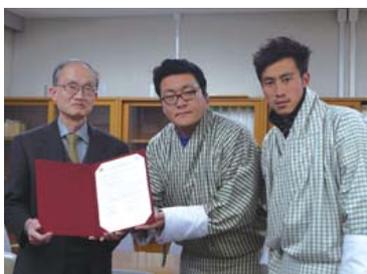
全体を通じて、非常に活発な議論が展開され、実りが多いセミナーであった。

来年の日中韓セミナーは、中国で開催の予定である。今後とも、東アジア地域の公開大学間で今回のような深みのある実質的な議論を伴う交流を継続していくことが期待される。

## 国際交流協定

2013年11月21日、ブータン王立シェルブツェ・カレッジ(SCRUB)と本学教育支援センターとの間で国際交流協定が締結された。協定書はSCRUBの教員と学

生により教育支援センターに持参され、意見交換・交流会が行われた。その後千葉・群馬学習センターを視察した。これにより、本学の国際交流協定校数は10校となった。



SCRUBから持参された国際交流協定書



意見交換会後のランチでの交流



群馬学習センターでの意見交換

## 放送大学への海外からの来客

2013年も、下記のとおり海外からの来客が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。



タイ(STOU)来訪者一行



バブアニューギニア来訪者一行学内見学の様子

月日	来訪者	月日	来訪者
4月10日	JICAラオス他来訪者(11名)	5月31日	JICAバブアニューギニア来訪者(11名)
4月16日	アブダビ教育評議会(ADEC)・UAE高等教育科学技術省来訪者(7名)	10月17日	タイRajabhat Maha Sarakham University(RMU)来訪者(36名)
5月8日	タイSTOU来訪者(11名)	10月18日	コスタリカ大学 コミュニケーション学部講師(1名)
5月29日	タイSTOU来訪者(33名)		

# 社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

## 日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約84万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策

提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

日本学術会議での会員(連携会員)加入状況

氏名	職名	専門分野
内堀 基光	教授	地域研究
小川 正人	教授	心理学・教育学
宜保 清一	沖縄学習センター所長・特任教授	農学
原 純輔	宮城学習センター所長・特任教授	社会学
梅干野 晁	教授	土木工学・建築学
松本 忠夫	教授	統合生物学
宮本 みち子	教授	社会学

## 学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会の

みならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
宮本 みち子	教授	日本学術会議連携会員、労働政策審議会委員、社会保障審議会委員、横浜市専門委員
大曾根 寛	教授	日本社会保障法学会監事、名古屋市障害者施策推進協議会委員、名古屋市障害者・高齢者権利擁護センター事業運営委員会委員長、四日市市地域福祉計画策定委員会委員長
奈良 由美子	教授	文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会 安全・安心科学技術委員会委員、文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究評価部会委員、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会 共同利用・共同研究拠点に関する作業部会 特色ある共同利用・共同研究拠点に関する専門委員会委員、内閣府独立行政法人評価委員会臨時委員、(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」研究開発領域 領域アドバイザー、日本リスクマネジメント学会理事、土木学会原子力土木委員会委員、(株)ペイエフエム 番組審議会委員 ほか
川原 靖弘	准教授	人間情報学会理事・評議員
関根 紀子	准教授	日本体力医学会評議員、文部科学省体力運動能力調査協力者
小川 俊樹	教授	(財)日本心理学会理事、日本ロールシャハ学会常任理事、名古屋大学教育学部・大学院教育発達科学研究科外部評価委員会委員
小川 正人	教授	文部科学省中央教育審議会中教審副会長、初等中等教育分科会長、教育制度分科会長、高校教育部会長、教員免許更新制度検討会議主査、教員養成部会委員、日本学術会議連携会員、東京都足立区教育委員長、日本教育学会、日本教育行政学会、日本教育経営学会理事
岡田 光正	教授	環境省中央環境審議会委員(水環境部会長)、環境省有明海・八代海等総合調査評価委員会委員長 広島市環境審議会会長
原田 順子	教授	総務省独立行政法人評価委員会専門委員、神奈川県医療費検討委員会委員、東京都足立区区民部調査等委託先選定委員
梅干野 晁	教授	日本学術会議連携会員
内堀 基光	教授	日本学術会議連携会員、日本学術振興会リーディング大学院プログラム委員会委員
五味 文彦	教授	文化庁文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会委員
滝浦 真人	教授	日本語学会評議員
宮下 志朗	教授	大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
加藤 浩	教授	総務省委託研究「災害時避難所等における局所的同報配信技術の研究開発」運営委員、日本教育工学会理事、日本教育工学会論文誌副編集長、日本科学教育学会評議員
黒須 正明	教授	人間中心設計推進機構理事長
近藤 智嗣	教授	科学研究費委員会(審査第三部会社会科学小委員会)専門委員、ISO/IEC JTC 1/SC24WG09小委員会(情報処理学会情報規格調査会)委員
児玉 晴男	教授	企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体)理事
三輪 眞木子	教授	納本制度審議会(国会図書館)委員、日本図書館情報学会 常任理事 国際委員会委員長
米谷 民明	教授	岡山県光量子科学研究所評議員
原 純輔	宮城学習センター所長	日本学術会議連携会員
岡野 幸雄	岐阜学習センター所長	日本生化学会評議員
栃原 裕	福岡学習センター所長	福岡市ユニバーサル都市・福岡推進協議会委員長

# 一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することを通して、大学と社会との垣根を取り去れば、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、

その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
講師	職名	テーマ	共催等
吉田 光男	副学長	韓流歴史ドラマと韓国と日本の歴史認識	香川学習センター
宮本 みち子	教授	産業教育学会第54回合同研究大会 若者が自立できる環境をどう作るか～孤立する若者の増加を見すえて自立の難しい時代を生きる子ども・若者	名古屋大学 新宿区新宿自治創造研究所職員向け 青森県
大曾根 寛	教授	アルコール健康障害対策基本法で何がかわるか?! 社会支援雇用制度の実現をめざして—海外における障害者就労施策— 生活リスクマネジメント研究の展開と展望	第35回日本アルコール関連問題学会岐阜大会 関東社会就労センター協議会 研究大会 大宮 日本リスクマネジメント学会第37回大会
奈良 由美子	教授	生活の観点からソーシャル・リスクマネジメントを考える 現代リスクマネジメントの諸相：ソーシャル・リスクマネジメントとリスク・リテラシー リスクコミュニケーション 美し国おこし・三重さきもり塾	日本学術会議第一部経営学委員会 日本リスクマネジメント学会主催 防衛省防衛研究所 三重大学
川原 靖弘	准教授	ネッククーラーを用いた頸部冷却による作業者の生理・心理・パフォーマンスへの影響	精密工学会秋季大会シンポジウム
小川 正人	教授	近年の国の教育政策動向と課題 近年の国の教育政策動向と課題 近年の国の教育政策と地方教育行政の課題 教育委員会制度改革の論議とゆくえ 教育委員会制度改革と今後の課題 中教審高校教育部会の審議と高校教育の課題	日本学校保健学会第60回研究大会 岩手県教育評価研究会 行政管理研究センター・教育再生セミナー 全国市区町村教育長セミナー 教育関連学会連絡協議会・日本学術会議共催シンポジウム 和歌山県立高等学校長会研修会
星 薫	准教授	看護師のための公開講演会と学位取得(大卒ナース)・心理学資格取得説明会	鹿児島県看護協会
岡田 光正	教授	瀬戸内海法40年にあたり、瀬戸内海の新たな環境課題 新しい環境課題への対応	えひめ環境大学 愛媛県
梅干野 晃	教授	ヒートアイランド現象とその対策技術の紹介 東京を低エネルギー都市にするにはどうするか	もったいない学会シンポジウム
内堀 基光	教授	中等教育でまなぶ「人種」「民族」とヒトの多様性 ボルネオのイバンからマダガスカルザフィマニリへ カミの人類学再読—semangatとantuをめぐる— 方丈記と徒然草	日本学術会議自然人類学分科会公開シンポジウム 民博セミナー 岩田教授追悼シンポジウム 浅草寺社会福祉会館教養講座
島内 裕子	教授	古典を生きる 文学に描かれた人生の楽しみ方	東京多摩学習センター 東京文京学習センター
宮下 志朗	教授	モンテニュー「エッセー」に学ぶ老いの思想	神戸市老眼大学
井口 篤	准教授	英語のセラピー	東京文京学習センター
黒須 正明	教授	Replicating and Extending Research on Relations between Visual Aestheticss and Usability, Noam Tractinsky and Masaaki Kurosu 最新技術をユーザ経験につなげるためのエスノグラフィ 新しい医療の探し方—Webサイトの使いやすさについて考える ユーザエクスペリエンスにおける感性情報処理	ACM SIGCHI 2013, RepliCHI Workshop OSRC2013年第2回研究部会 厚労省科研費研究班 日本人間工学会感性情報処理・官能評価部会2013年度講演
岡野 幸雄	岐阜学習センター	細胞分裂のメカニズム～細胞のがん化にも関連して～	岐阜市高齢者大学



「韓流歴史ドラマと韓国と日本の歴史認識」



「看護師のための公開講演会と学位取得(大卒ナース)・心理学資格取得説明会」



「英語のセラピー」

# 「教育支援センター」が発足

2013年4月、新たに誕生した「教育支援センター」は、放送大学におけるICTを活用した新しい学びを創造し、教育支援に力を注いでいる。以下に2013年度の主な活動を紹介する。

- ①eラーニングサービスの提供や、教材の有効活用、教育リソースのオープン化。
- ②授業番組や面接授業の質の向上と、学習形態の多様化、大学全体のICTリテラシーの向上。
- ③教育情報システム・ツールの企画・開発・運営、とくに、PCやモバイル端末による受講のしくみづくりや、ユニバーサルアクセス化の推進。

## 公開教育のためのコンテンツとオンライン授業プラットフォーム

放送大学は日本で唯一の公開大学 (Open University) として、さまざまな公開教育資源 (Open Educational Resources, OER) 運動に参加、教材を無償で提供している。教育支援センターでは、放送大学オープンコースウェア (OCW) の公開支援をおこなうほか、日本オープンコースウェアコンソーシアム (JOCW) の横断検索機能の実現に協力している。

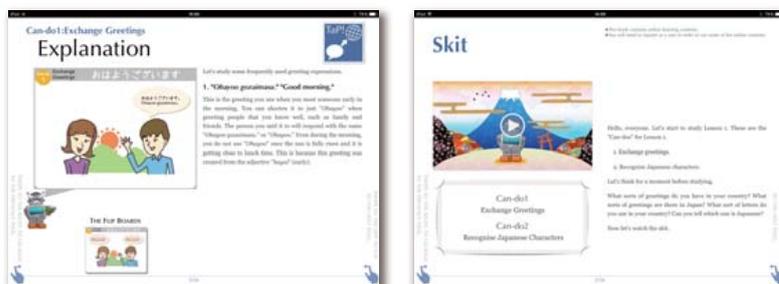
また、放送大学では2015年度よりオンライン主体の授業科目も始まるが、教育支援センターでは複数のパイロットコースを立ち上げ、その効果を検証している。大規模・グローバル、電子教科書、公開授業をキーワードにしたのが、放送大学MOOCプラットフォームである。MOOCとはMassive Open Online Course

(大規模公開オンライン講座) のことで、2013年秋には放送大学も参加してJMOOC (Japan MOOC) コンソーシアムが立ち上がった。オープンコースウェアに代表される、これまでの公開教育資源の多くが、単なる教材共有・教材配信にとどまったのに対して、MOOCは学習指導や認定も無償で公開しようとしている点に特色があり、大規模に実施することで事業の持続性を確保しようとしている。

放送大学MOOCの1つ、「にほんごにゅうもん (NIHONGO Starter)」(国際交流基金、NPO法人CCC-TIESと共同) では、数十か国からのべ1,000名以上の学習者が参加した。



にほんごにゅうもん (NIHONGO Starter) 登録画面 (Facebook TMI トップ)



「にほんごにゅうもん (NIHONGO Starter)」電子教科書の一部

## 大学講義のアクセシビリティ 音声認識技術による放送大学講義の字幕付与

我が国では、2016年(平成28)年から、障がいを理由にした差別を禁じる障がい者差別解消法が施行される。通常の大学の2倍の障がい学生が学ぶ放送大学にとって、講義のアクセシビリティは喫緊の課題となる。

障がい者支援プロジェクトは、2012年から京都大学学術情報メディアセンターの河原達也教授と協力して、音声認識を用いた放送大学の講義音声の字幕付与とデジタル化を進めてきた。河原教授らは、オープンソースの音声認識ソフトJuliusや、衆議院の会議録作成のための音声認識を開発することで知られ、現在これらの音声認識技術をクラウドサーバ型のシステムに展開しつつある。

現在は、当プロジェクトと河原研究室が協力して、放送大学の印刷教材・視聴覚教材を利用して大学講義に特化した膨大なデータベースを構築中である。講義の内容に即した単語や文章を活用した言語モデルと、

多様な講師の声を活用した音声モデルを使えば、講師の話し方や声質によって精度に差は出るものの、講義によっては90%以上の精度のテキストができる。

今後は、ますます多くの学生がTV教材やラジオ教材をインターネットで視聴するようになり、オンライン学習も増えていくこととなる。そのときに、音声認識システムを活用した字幕制作が、講義をアクセシブルなものにし、学びの可能性を広げることになるであろう。



## パソコン初心者支援する面接授業 『初歩からのパソコン』

今日の学習においてパソコンやインターネットの利用はもはや不可欠になっている。これまでパソコンに触れたことのない学生が、それらを活用してより実りある学習ができるようにするにはどうしたらよいか…。

この課題に対応するために2010年から、面接授業『初歩からのパソコン』の教材開発と講師支援を行っている。この面接授業では、パソコンの電源の入れ方、マウスの操作、文字入力からはじまり、ウェブ、電子メール、セキュリティーとマナー、文書作成やプレゼンテーションの基礎などを、講義と演習を通じて学ぶ。

さらにキャンパスネットワーク、システムWAKABA、電子図書館、UPO-NETの使い方も紹介する。そのために、170ページをこえる共通テキスト(面接授業後の復習時の利用を想定)の作成、講師用パワーポイントや学生実習用素材の作成、講師の情報共有サイトの運営等を行っている。

この面接授業は全学習センターで開講され、すでに、10代から90代に及ぶ約4,000名の学生が受講した。



授業前後のチェックリストへの記入を通して、受講によるICTスキルの向上や自己効力感の統計的有意な向上が確認されている。これは講師、ティーチングアシスタントのきめ細やかな指導のたまものといえる。

2013年には受講者の追跡調査も行い、ICTスキルが受講後もほぼ維持されていることを確認した。すべての学生が放送大学の情報サービスを活用できるよう、こうした取り組みを継続していきたい。

## インタラクティブ学習システムの具体化プロジェクト

インターネットの進化と普及に伴い、オンライン授業は、欧米では既に一般的となっている。オンライン授業には様々な形態があるが、日本ではビデオ教材やスライド教材をネット上に掲載するのみの教材配信型のものが多い。

一方で欧米のオンライン授業においては、従来の講義による知識付与のみにとどまらない知識構築型のインタラクティブな授業・学習方式が主流となってきており、また、現代社会に求められるスキル・能力の育成においても、学生が能動的に参加できる授業形式の必要性が認められている。

本プロジェクトでは、インタラクティブなオンライン授業を具体化するために必要な検討要因を整理し、具体的にオンライン授業の設計と開発を行うことによって、今後、放送大学がオンライン授業を制度化するにあたって整備しなければならない体制・システムを明確化することを目的とした。

また、オンライン授業の経験のない教員が自ら学習者となってまずオンライン授業を体験できるように「初めてのオンライン授業」というモジュールを、オープンソースの学習管理システムとしては世界最大のシェアを占めるMoodle上に制作した。



## 放送科目づくりの知恵袋サイトです

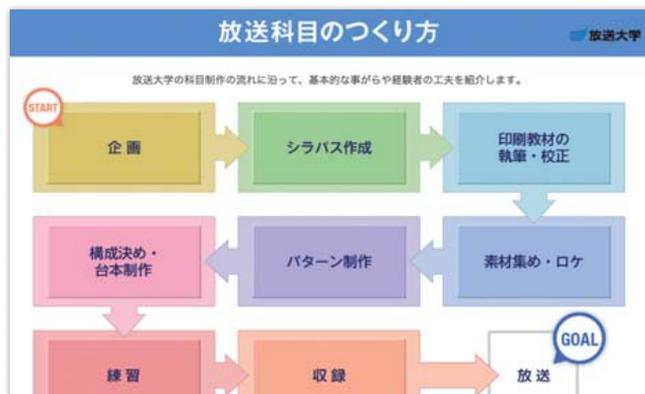
Webサイト「放送科目の作り方」は、放送大学の科目制作の流れに沿って、基本的なことからや経験者の工夫を紹介するサイトである。目次では、「企画」「シラバス作成」「印刷教材の執筆・校正」「素材集め・ロケ」「パターン制作」「構成決め・台本制作」「練習」「収録」(放送)という制作の流れごとに、示されている。

とくに、外部講師の方やはじめて放送科目の制作にあたる方を主な対象にしているが、基本的な内容(みんなの基本)の他に、教員独自のアイデアや工夫(私の極意)など、役立つ内容が満載されている。

例えば、以下の内容がアップされている。

- ・すでに製作されているものを映像資料として無償で譲り受けて活用
  - ・図解で「見せるパターン」
  - ・自分の専門性と持ち味を活かした形で収録に臨む
  - ・印刷教材と放送教材の授業にWebをプラスする
- また、全体を通して必要な「著作物利用Q&A」が22項目にわたって用意されている。

今後、「放送科目の作り方」はさらに充実していく予定である。



# 学習センターの活動、この1年

## 入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間合計53,810名の学部学生と大学院生が入学し、放送大学における学びへの第1歩をふみだした。



滋賀学習センター



東京文京学習センター



愛知学習センター



福島学習センター

## 名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の5コースすべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」という制度を設立した。

2013年度は、42名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得た者は3月の学位記授与式で学長表彰された。なお、2011年度の表彰より、5コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができるなど各種特典を付与している。



## 新任の学習センター所長

2013年度は16の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展のための活動に取り組んでいる。

### 新任の学習センター所長一覧

秋田学習センター	井上 浩(いのうえ ひろし)	和歌山学習センター	竹内 昭浩(たけうち あきひろ)
福島学習センター	森田 道雄(もりた みちお)	鳥取学習センター	若 良二(わか りょうじ)
栃木学習センター	海野 孝(かいの たかし)	山口学習センター	阿部 憲孝(あべ のりたか)
千葉学習センター	宮野 モモ子(みやの ももこ)	徳島学習センター	大西 徳生(おおにし とくお)
神奈川学習センター	池田 龍彦(いけだ たつひこ)	福岡学習センター	栃原 裕(とちはら ゆたか)
長野学習センター	二宮 晏(にのみや やすし)	長崎学習センター	東條 正(とうじょう ただし)
岐阜学習センター	岡野 幸雄(おかの ゆきお)	宮崎学習センター	宇田 廣文(うだ ひろふみ)
静岡学習センター	高木 敏彦(たかぎ としひこ)	鹿児島学習センター	菅沼 俊彦(すがぬま としひこ)

## 9学習センターで開設15周年・20周年の記念式典を開催

青森、岩手、東京足立、京都、および兵庫学習センターは開設20周年、和歌山、徳島、佐賀、および鹿児島学習センターは開設15周年を迎え、放送大学創立30周年とあわせて記念式典を開催した学習センター

もあった。これらの学習センターでの記念講演会では岡部学長が講演を行った。式典や講演会等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



京都学習センター 岡部学長による記念講演会・祝賀会



兵庫学習センター 記念式典・岡部学長による記念講演会



徳島学習センター 記念式典・元放送大学学園理事 大西珠枝氏による記念講演会



# 地域に根ざした教育

## 面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 岐阜学習センター  
「岐阜の森林から自然環境を考える」
- 和歌山学習センター  
「熊野の神の信仰・歴史・風土」
- 滋賀学習センター  
「近江学入門」



岐阜学習センター「岐阜の森林から自然環境を考える」



和歌山学習センター「熊野の神の信仰・歴史・風土」



滋賀学習センター「近江学入門」

## 中国・四国ブロック「公開授業」

中国・四国ブロックでは面接授業を一般の方も受講できる「公開授業」として開設した。ブロック内の9県の学習センターにおいて「中国・四国地方の風土と人々の暮らし」を共通テーマとして、風土を自然や文化的な事項なども含めて広く解釈し、各学習センターで授業科目の設定、講師選定及び開講場所の決定等を行い、面接授業を組み立てた。それを一般の方も学生同様5,500円の受講料で受講できる「公開授業」として学習センターごとに開講した。

放送大学

### 平成25年度 中国・四国ブロック公開授業

各授業 5,500円

この公開授業は、放送大学の開講授業を公開する形で実施するもので一般の方も受講できます。講義内容の詳細およびお申し込みなどは、各学習センターへお問い合わせください。  
※定員になり次第締め切りとなります。

〈共通テーマ〉  
「中国・四国地方の風土と人々の暮らし」

<p><b>鳥取</b></p> <p>平成25年5月25日(土)・26日(日)</p> <p>授業科目: 観光地域論</p> <p>担当講師: 香川 利洋子(鳥取県立大学地域イノベーション研究センター 講師)</p> <p>場所: 鳥取学習センター</p> <p>問い合わせ: 0857-377-2351(鳥取学習センター)</p> <p>定員: 40名(学生30名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 社会</p>	<p><b>広島</b></p> <p>平成25年11月9日(土)・10日(日)・30日(土)</p> <p>授業科目: 広島の風土と人々の暮らし</p> <p>担当講師: 木本 一三(広島大学 教授)・山内 尚(広島大学大学院博士課程前期 准教授)</p> <p>場所: 広島県立広島大学 教員 広島 県立広島大学 准教授</p> <p>問い合わせ: 082-600-0151(広島学習センター)</p> <p>定員: 40名(学生30名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>
<p><b>島根</b></p> <p>平成25年6月29日(土)・30日(日)</p> <p>授業科目: 山陰地方の風土と自然災害</p> <p>担当講師: 西田 尚平(鳥取大学 名誉教授)</p> <p>場所: 鳥取学習センター</p> <p>問い合わせ: 0852-206-5500(鳥取学習センター)</p> <p>定員: 40名(学生30名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 自然</p>	<p><b>徳島</b></p> <p>平成25年6月15日(土)・16日(日)</p> <p>授業科目: 阿波の風土と年中行事</p> <p>担当講師: 高橋 善一(徳島大学大学院イノベーション・センター(工学)准教授 教授)</p> <p>場所: 徳島学習センター</p> <p>問い合わせ: 087-600-0151(徳島学習センター)</p> <p>定員: 40名(学生30名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>
<p><b>岡山</b></p> <p>平成25年6月29日(土)・30日(日)</p> <p>授業科目: 江戸時代の災害と記録</p> <p>担当講師: 香川 利洋子(岡山大学 教授)</p> <p>場所: 岡山学習センター</p> <p>問い合わせ: 086-254-9040(岡山学習センター)</p> <p>定員: 55名(学生50名、一般5名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>	<p><b>香川</b></p> <p>平成25年4月20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)</p> <p>授業科目: 金毘羅参詣続談栗毛を読む</p> <p>担当講師: 藤田 二朗(岡山大学 教授)</p> <p>場所: 岡山学習センター</p> <p>問い合わせ: 087-637-9877(岡山学習センター)</p> <p>定員: 60名(学生50名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>
<p><b>山口</b></p> <p>平成25年6月15日(土)・16日(日)</p> <p>授業科目: 長門北浦の暮らしの民俗</p> <p>担当講師: 坪根 博昭(山口大学 教授)</p> <p>場所: 山口県立広島大学 学舎</p> <p>問い合わせ: 083-626-2501(山口学習センター)</p> <p>定員: 35名(学生30名、一般5名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>	<p><b>愛媛</b></p> <p>平成25年6月1日(土)・2日(日)</p> <p>授業科目: 愛媛の風土と食生活</p> <p>担当講師: 藤林 良樹(愛媛大学文学部研究センター 教授)</p> <p>場所: 愛媛大学文学部 教員 山田 尚(愛媛大学文学部 教授)</p> <p>問い合わせ: 089-923-8544(愛媛学習センター)</p> <p>定員: 60名(学生50名、一般10名)</p> <p>科目区分: 専門科目 社会と産業</p>
<p><b>山口</b></p> <p>平成25年10月26日(土)・27日(日)</p> <p>授業科目: 柳井・周防大島の暮らしと民俗</p> <p>担当講師: 高田 正史(山口大学 教授) 小松 幸一(山口大学 教授)</p> <p>場所: 山口県立広島大学 学舎</p> <p>問い合わせ: 083-626-2501(山口学習センター)</p> <p>定員: 45名(学生40名、一般5名)</p> <p>科目区分: 専門科目 人間文化</p>	<p><b>高知</b></p> <p>平成26年1月4日(土)・15日(日)</p> <p>授業科目: 地域の景観から土佐の風土を考える</p> <p>担当講師: 藤林 良樹(広島県立大学 教授)</p> <p>場所: 高知学習センター</p> <p>問い合わせ: 088-843-4564(高知学習センター)</p> <p>定員: 40名(学生35名、一般5名)</p> <p>科目区分: 専門科目 社会と産業</p>

http://www.ouj.ac.jp 放送大学は放送大学学園(文部科学省「経費適正措置」)によって設置された正課の通信制大学です。

## 集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

### 研修旅行

全国の学習センターでは学生間の交流を図るため、また学生と職員の交流を図ることを目的として、研修旅行を実施している。



秋田学習センター



東京多摩学習センター



鳥取学習センター



熊本学習センター

### 文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。

文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



岐阜学習センター「作品展」



高知学習センター「芸術文化祭」



千葉学習センター「秋祭り」



東京多摩学習センター「たま祭」

## サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、

年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



福島学習センター「登山サークル」



埼玉学習センター「バランス体操“悠悠”」



千葉学習センター「海洋クラブ」



東京足立学習センター「ツーリングクラブ」



三重学習センター「アートひろば」



香川学習センター「環境・文化サークル」



多摩学習センター「天文同好会」



高知学習センター「書道クラブ」

# 地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生に限らず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供している。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は本年度開催されたもののほんの一例である。

## 公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師
北海道学習センター	自分らしい生き方を創る ～ストレスを超えて～	北海道大学名誉教授 佐藤 公治
青森学習センター	江戸の話しことばと文化 ～『四谷怪談』に見る言語生活～	青森学習センター所長 藁科 勝之
宮城学習センター	世論調査・市場調査とどう付き合うか ～放送授業「社会調査」の制作～	宮城学習センター所長 原 純輔
秋田学習センター	秋田を学ぶ講座シリーズV	秋田県各界有識者
山形学習センター	津波震災地岩手から学ぶ ～津波被害の実状と地域防災の基本的な在り方～	岩手学習センター所長 齋藤 徳美
福島学習センター	学びなおしのすすめ ～よく学べるための技法～	福島学習センター所長 森田 道雄
茨城学習センター	日常生活におけるやさしい科学と工学	茨城学習センター所長 白石 昌武
栃木学習センター	プレッシャー場面における実力発揮 ～試合、発表会、入試で～	栃木学習センター所長 海野 孝
埼玉学習センター	ブータンとともに考えるGNH(国民総幸福)	放送大学教授 河合 明宣
千葉学習センター	音楽の楽しさ	千葉学習センター所長 宮野 モモ子
東京足立学習センター	ミャンマーの最新事情	東京足立学習センター所長 冨永 典子
東京渋谷学習センター	一人暮らし高齢者の支援 ～ビジネス、家族、地域～	桜美林大学特任教授 直井 道子
東京多摩学習センター	古典を生きる ～「方丈記」と「徒然草」を中心に～	放送大学教授 島内 裕子
神奈川学習センター	みなとヨコハマと市民生活	神奈川学習センター所長 池田 龍彦
新潟学習センター	これからの食と農を考える	新潟学習センター所長 伊藤 忠雄
富山学習センター	腸内細菌の善玉と悪玉	富山学習センター所長 服部 征雄
静岡学習センター	地球環境と海洋	放送大学副学長 小寺山 亘
三重学習センター	現代社会における犯罪と刑罰	三重学習センター所長 上野 達彦
滋賀学習センター	激動の中東情勢を読み解く ～核開発とイラン危機/戦争か、交渉か?～	放送大学教授 高橋 和夫
奈良学習センター	生命の起源を考える ～GADV仮説～	奈良学習センター所長 池原 健二
大阪学習センター	ゲーテとイタリア	大阪学習センター所長 林 正則
鳥取学習センター	流れを学ぶ	鳥取学習センター所長 若 良二
島根学習センター	日本文化としての昔話 ～「桃太郎」の歴史を読み解く～	島根学習センター所長 足立 悦男
岡山学習センター	公法と私法ってどういう意味	岡山学習センター所長 岡田 雅夫
山口学習センター	化学の面白さ	山口学習センター所長 阿部 憲孝
香川学習センター	暮らしをつくりかえる生活経営力	放送大学教授 松村 祥子
愛媛学習センター	日本史の中の伊予地域	放送大学教授 五味 文彦
高知学習センター	夢をさがそう	東京藝術大学長 宮田 亮平
福岡学習センター	環境人間工学の研究内容 ～温熱環境の安全性と快適性～	福岡学習センター所長 栃原 裕
佐賀学習センター	あなたらしく・・・私らしく・・・	佐賀県看護協会会長 三根 哲子
長崎学習センター	魂の不死について	長崎大学名誉教授 篠原 駿一郎
熊本学習センター	どこでも生涯学習事業公開講演会「万田坑」	九州大学大学院教授 熊本学院大学教授 藤原 恵洋 幸田 亮一
沖縄学習センター	沖縄の健康は発酵パワーから! ～知られざる泡盛と豆腐ようの秘密～	琉球大学名誉教授 安田 正昭



秋田学習センター



高知学習センター



熊本学習センター



沖縄学習センター

## 同窓会の活動

現在全国47カ所の学習センター及びサテライトスペースで同窓会が組織されている。学部全科の卒業生、修士全科の修了生なら参加することができ、会員数は11,000人を超えている。

各学習センターの同窓会では「入学者の集い」「学位記授与式」での協力、「講演会の開催」「研修旅行の開催」「機関紙の発行」などの活動を通じて会員相互の親

睦と交流を深めている。

また、同窓会連合会は、例年学位記授与式後に「卒業・修了祝賀パーティー」を企画・運営している。今年は、3月21日(土)NHKホールでの「学位記授与式」終了後、ホテルニューオータニで開催され、600人も卒業生・修了生が参加し、学生生活の思い出を学友や先生方と語り合った。



同窓会連合会のホームページ



卒業・修了祝賀パーティー

## 附属図書館所蔵コレクション展の開催

放送大学では、毎年、附属図書館が所蔵するコレクションの一部を各地で展示し、貴重な資料に触れる機会とするとともに、放送大学への理解を深めるきっかけとしていただいている。

2013年度は下表の4箇所でコレクション展を開催した。

青森では青森学習センター開設20周年記念事業の一環として、また、東京文京学習センターでは放送大学創立30周年記念事業の一環として開催した。各会場とも「日本残像～ちりめん本と古写真が語る幕末明治～」と題し、明治期の欧文和装絵本「ちりめん本」や幕末から明治期の古写真を展示した。ご当地ゆかりの古写真を展示したこともあり、どの会場も盛況だった。来場した一般の方には放送大学への理解を広め、放送大学の学生には放送大学への愛着を深める機会となった。



東京文京学習センター

学習センター	期間	場所	来場者数(人)
山梨学習センター	6月14日(金)～6月17日(月)	山梨県立図書館(山梨県甲府市)	540
奈良学習センター	7月17日(水)～7月21日(日)	奈良県立図書館(奈良県奈良市)	1,400
青森学習センター	10月17日(木)～10月20日(日)	弘前市立観光館(青森県弘前市)	485
東京文京学習センター	11月5日(火)～11月10日(日)	東京文京学習センター(東京都文京区)	1,130



青森学習センター



山梨学習センター・奈良学習センター

# 放送大学の新たな動き

## 地域貢献プロジェクト

本学はこれまでも地域に展開した学習センターを拠点として、さまざまな形で地域貢献を推進してきた。本学の学生の多くは、全国に展開する各学習センターのもとで学んでいる。その中には既に地域のリーダーとして活躍中の学生が多数おり、2013年度学習センターが中心となりこれらの学生の活動を支援し、さらにそれに続く新しいリーダーを養成するために、地域のニーズに応える21件の地域貢献プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトの特徴は、本学の強みである以下の3点を活かした地域貢献事業を推進するという点である。

1. 全国に展開する知の拠点 (50か所の学習センター、7か所のサテライトスペース)
2. 即戦力のある人材 (約9万人の社会人学生とそれをサポートする880人以上の学習センター教職員)
3. 強力な教育情報システム (全国に展開する放送授業・面接授業・公開講演会など)

これらのプロジェクトを通して、地域の発展に貢献するとともに、21世紀の日本をリードする人材を輩出することが期待される。



地域貢献プロジェクトwebサイト

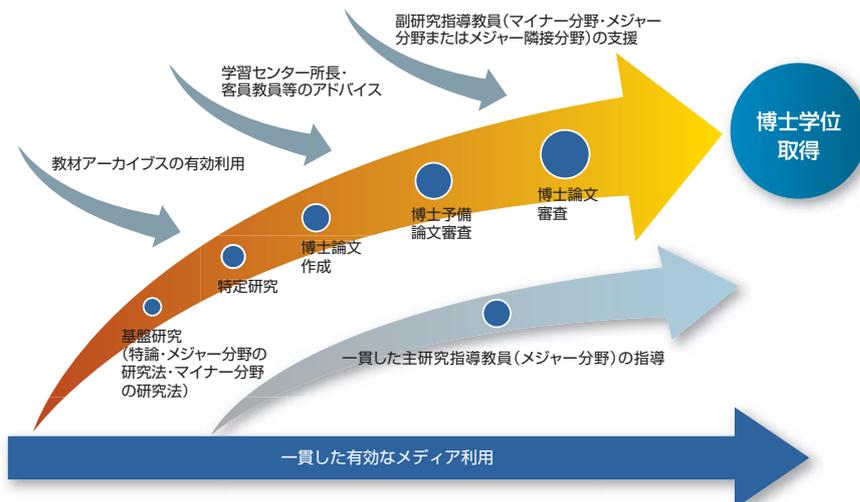


地域貢献研究会報告書

## 大学院博士後期課程の設置

放送大学は2001年度に大学院修士課程を設置して、多くの職場や地域社会の問題に取り組む社会人の学生を指導し、一定の成果を上げてきた。しかしながら、日本の社会がますます複雑化・多様化するのに伴い、新たな問題に対処するため、修士課程教育以上の高度な教育・研究を切望する声が年々高まっていた。そのような要請に応え、地域社会・職場等の課題解決のリーダーとな

る実践的・高度社会人研究者、そして高い研究能力と知の発信能力をもった教養知識人研究者を養成するための博士後期課程の設置を申請し、2013年10月認可された。2014年4月大学院博士後期課程、いわゆる博士課程を設置し、同年10月より学生の受け入れを開始することとなる。



## 誰でも無料で受講できる“MOOC”推進団体 「日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)」への参加

多数の大学レベルの授業を無償で提供する“大規模公開オンライン教育”のプラットフォーム提供・認知拡大を推進する「一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進協議会(略称:JMOOC)」が2013年10月に設立され、本学白井理事長が同協議会の理事長に、岡部学長が理事に就任し、放送大学は正会員として加入した。

オープン教育の分野は米国マサチューセッツ工科大学(MIT)が2001年に発表したオープンコースウェア(OCW)に端を発し、日本では2005年にOCWを開始、21の大学を含む41組織の加盟する日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW)に拡大し3000科目

以上が公開される規模となった。2012年からは米国を中心に10万人規模の登録者が世界中から学習するMOOC(Massive Open Online Courses)が急速に発展した。いまや世界的な規模に発展しつつある状況で、その利用形態も大学が正規の単位として認定する動きや認定資格を企業の採用基準として活用するなど、社会的な流れになりつつある。

2014年4月より講座がスタートし、放送大学も「コンピュータのしくみ」「にほんごにゅうもん(NIHONGO STARTER)」の2講座を開講する。



## 16年ぶりに九州大学キャンパスに戻る【福岡学習センター】

福岡学習センターが九州大学箱崎キャンパスに初めて設置されたのは1990年、その後1998年には、講義室が手狭になったこともあり現在の博多織会館に移転した。近年、こちらも手狭になったことにより2014年4月から九州大学筑紫キャンパスに移転する。

新しい学習センターは、床面積で以前の2割増しとなり。講義室は1室増えて4室で、総席数は282席となる。面接授業の定員制限といった問題は解消される。学生のための部屋も2室となり、単位認定試験や面接授業時の憩談が容易となり、サークル活動もより活発になることが期待される。環境(風景)は、大きく変わった。博多織会館は、博多駅近くの繁華街にあるが、新学習センターは緑豊かな九州大学筑紫キャンパス内にあり、キャン

ス内にある図書館、食堂、生協等を利用でき、アカデミックな雰囲気での教育・研究が可能になると期待される。



新福岡学習センターキャンパス

# データで見る放送大学の概要

## 教職員数 [単位:人]

役員	7	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	91	
事務職員	239	
合計	339	※3

(2014年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む

※2 副学長(理事)を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

## 在学生数 [単位:人]

### 教養学部

学生の種別等	在学生
全科履修生	55,717
選科履修生	17,533
科目履修生	7,525
特別聴講学生	3,459
合計	84,234

(2013年度第2学期)

### 大学院

学生の種別等	在学生
修士全科生	1,159
修士選科生	3,805
修士科目生	956
合計	5,920

(2013年度第2学期)

### 集中科目履修生

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	807
看護師資格取得に資する科目	496
合計	1,303

(2013年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

## 単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種別	校数
大学院	7
大学	272
短大	86
高専	13
合計	378

(2014年3月31日現在)

## 入学者数 [単位:人]

### 教養学部

学生の種別等	1学期	2学期	合計
全科履修生	7,765	4,093	11,858
選科履修生	11,496	5,963	17,459
科目履修生	6,504	7,525	14,029
特別聴講学生	1,189	3,459	4,648
合計	26,954	21,040	47,994

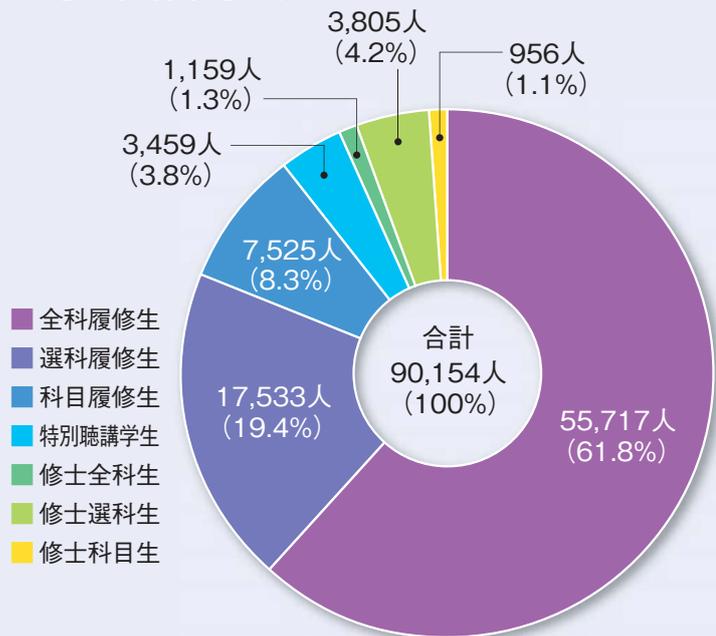
(2013年度)

### 大学院

学生の種別等	1学期	2学期	合計
修士全科生	440	—	440
修士選科生	2,651	1,114	3,765
修士科目生	655	956	1,611
合計	3,746	2,070	5,816

(2013年度)

## 学生種別 在学生数



## 学部卒業生数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
1,632	2,786	4,418	79,186

(2013年度)

## 大学院修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
9	311	320	4,177

(2013年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11  
TEL:043-276-5111(総合受付)  
<http://www.ouj.ac.jp/>